



特集

巻頭言 観光は終の栖の内覧会―死に甲斐のある終の栖のまちづくり―  
元近江八幡市長 川端五兵衛

## 観光客急増で問われる地域の“意思”

### ① 観光による地域への負の影響に

#### ① どう向き合おうべきか

地域は観光を通じて負の影響だけではなく正の影響も受けており、前者だけがある立場から切り出して取り上げるだけでは、本当の解決に至らない。

公益財団法人日本交通公社  
観光地域研究部  
主任研究員  
後藤健太郎

P 4

### ② オーバーツーリズムに苦悩する国際観光都市

伝統的な市民力に頼り切るのではなく、計画が適切な観光市場を作っていくという発想こそが求められる。

龍谷大学政策学部 教授  
阿部大輔

P 8

### ③ 地域らしさと町の品格に相応しい観光振興のあり方とは

#### ③ 滋賀県・近江八幡

市民も観光客も楽しめる観光事業こそが住む人の郷土愛の増進に繋がり、観光客の満足度のアップになる。

近江八幡観光物産協会  
事務局長  
田中宏樹

P 15

### ④ 生活と観光のバランスを考える視点と環境変化への対応

2000年代以降の生活型観光地・由布院の取り組みを通じて、生活と観光のバランスを地域側にだけ求めるのではなく、外も含め、それぞれの立場でもっと考えていく必要があるだろう。

後藤健太郎

P 20

### ⑤ 世界の人々の夢と憧れの街へ

#### ⑤ 東京都・銀座の取り組み

さまざまな課題があるとしても、それは、おそらく変化の一部なのだ。

一般社団法人銀座通連合会、  
全銀座会、  
銀座街づくり会議 事務局長  
竹沢えり子

P 25

### ⑥ 観光地域のマネジメントに先立ち必要となる計画管理

#### ⑥ 鎌倉市観光基本計画

市民と観光客、両者の満足に繋がるまちの成熟度を高めるために、より住民を意識した目標が掲げられている。

後藤健太郎

P 30

## 7 居住地での観光を許容制限する対応

〔韓国ソウル・北村韓屋村〕

地域が観光を統制できる規模を維持しなければならないし、方向性や対策を決める際のプロセスの重要性を看過してはならない。

帝京大学  
経済学部 観光経営学科  
准教授  
金 振 晩

P 35

## 視座

### 観光客急増で問われる 地域の“意思”

オーバーツーリズムは今はまだ一部の地域に留まっている。しかし、その現状を知り、事前に察知する視点や備える意識を持つておくことは必要だ。

公益財団法人日本交通公社  
主席研究員  
吉澤清良

P 42

観光研究レビューNo.26

## 韓国におけるオーバーツーリズムの現況と対応の方向性

〔日韓国際観光カンファレンス2018より〕

公益財団法人日本交通公社  
観光文化情報センター 主任研究員  
福永香織

P 47

旅の図書館開設40周年特別講演

## 古書から学ぶ未来へのヒント―日本の観光の課題とこれから―

神戸芸術工科大学 教授  
西村幸夫

P 52

## 活動報告

第13回 たびとCafe 開催 レポート: 観光文化情報センター 主任研究員 福永香織

## 世界を魅了する飛騨高山のインバウンド戦略

―独自の取り組み「戦略派遣」の展開― Guest speaker: 高山市東京事務所所長代理 江尻英夫

P 60

第14回 たびとCafe 開催 レポート: 観光文化情報センター 主任研究員 福永香織

## 観光都市ロンドンはおリンピックをどう捉えたか

―建築空間・公共空間・景観を観光レガシーへ― Guest speaker: 山崎一也 建築設計事務所代表 山崎一也

P 64

## 第28回 旅行動向シンポジウムを開催

レポート: 公益財団法人日本交通公社 観光文化情報センター 泉 佳奈

P 68

〔連載〕観光を学ぶということ①

## 淑徳大学 経営学部観光経営学科 朝倉ゼミ

淑徳大学 教授  
朝倉はるみ

P 72

旅の図書館から

## 特集関連の蔵書・報告書リスト

選: 旅の図書館副館長  
大隅一志

P 75